

# 令和6年度 栄養管理における多職種間連携強化支援事業にかかる アンケート調査結果概要

目的：令和6年度 栄養管理における多職種間連携強化支援事業実施に伴い、西和地域7町の在宅療養者における栄養管理の課題および在宅療養支援者における「栄養サマリー」「食形態一覧表」の認知度・活用状況を把握し、在宅療養者が身体状況に合った食事を食べることができ、必要時栄養管理を受けられる体制を整備するためにアンケート調査を実施する。

対象：西和地域7町 74事業所

(居宅介護支援事業所69カ所、小規模多機能型居宅介護支援事業所5カ所)

平群町	三郷町	斑鳩町	安堵町	上牧町	王寺町	河合町
12	12	15	6	13	8	8

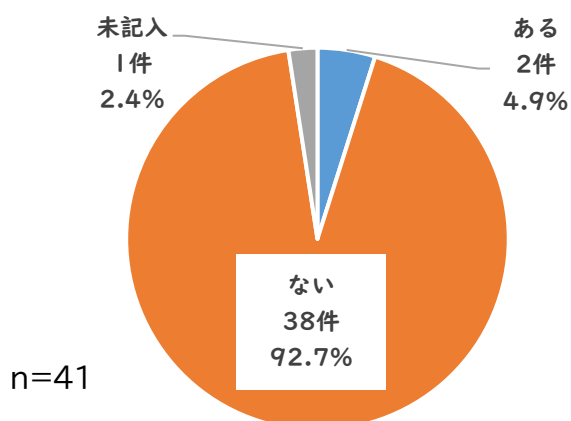
方法：自記式アンケート調査

郵送にて配布し、FAXにて回答（回収55.4% 41/74施設）

期間：令和6年8月配布 9月回収

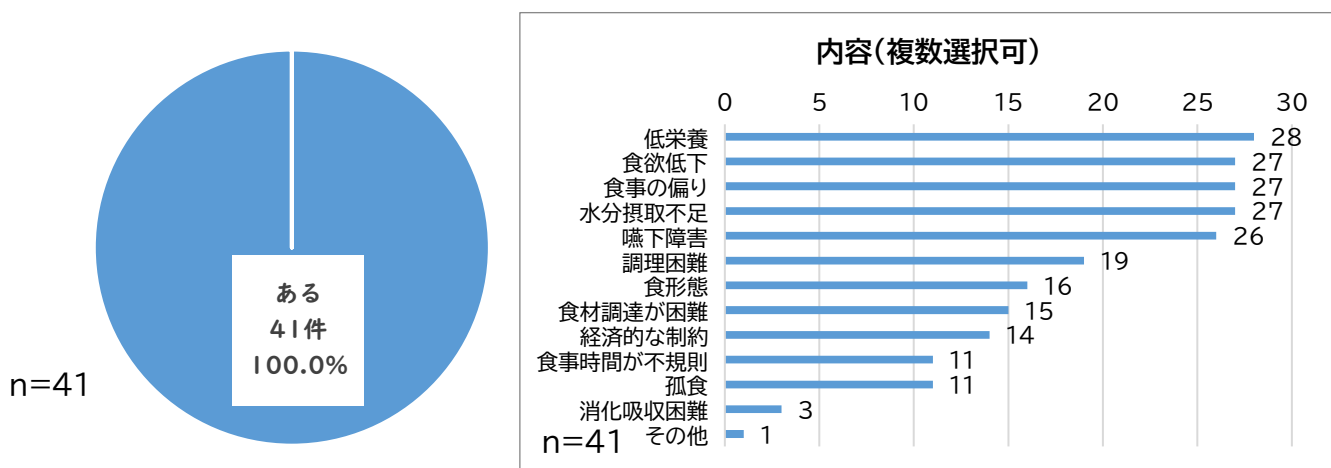
## 調査結果

### 1. ケアマネジャーやヘルパー等が在宅療養者の食事・栄養状態を観察するためのツールはありますか。



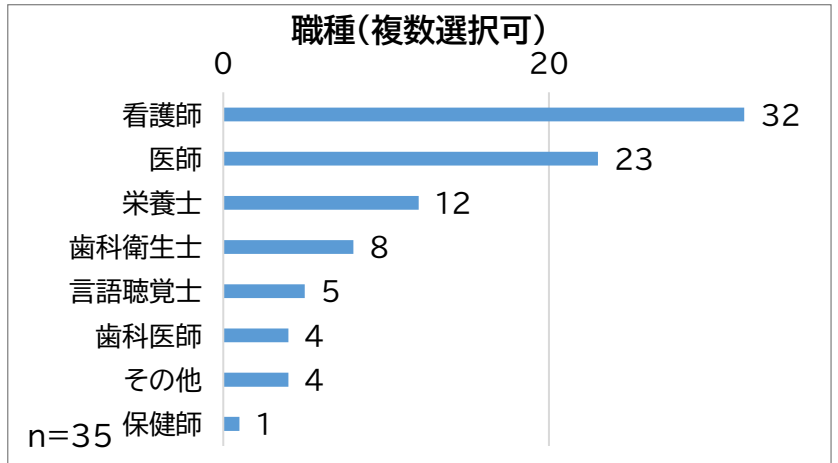
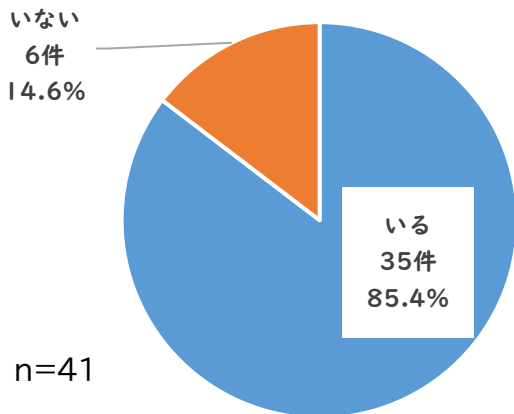
在宅療養者の食事・栄養状態を観察するためのツールが無い施設は92.7%で、ある施設は2施設（4.9%）のみであった。

### 2. ケアマネジャーやヘルパー等が在宅療養者の食事・栄養状態に関して課題と感ずることはありますか。



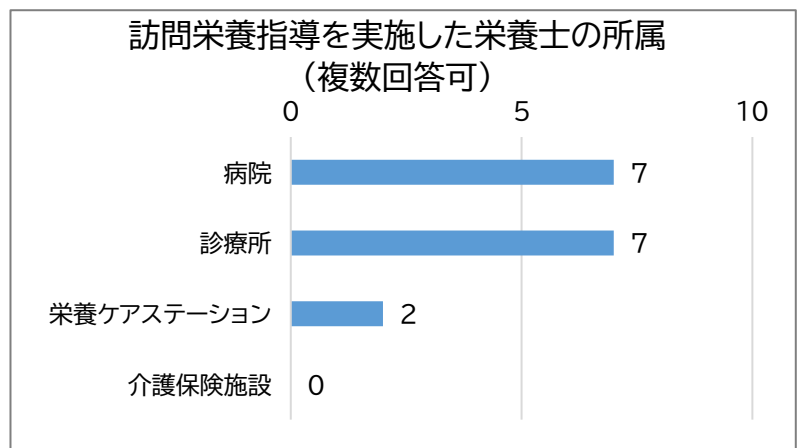
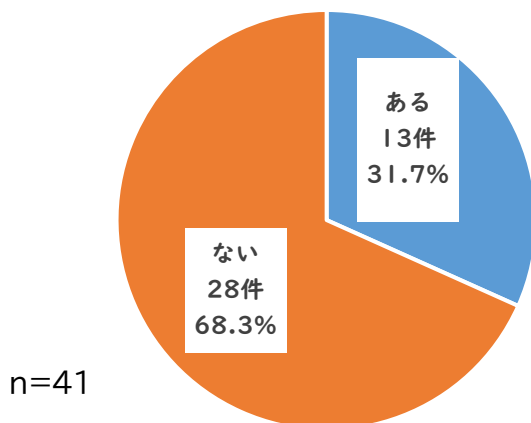
在宅療養者の食事・栄養状態に関して課題と感ずる施設は100%で、内容は「低栄養」「食欲低下」「食事の偏り」「水分摂取不足」「嚥下障害」が多い。

**3. ケアマネジャーやヘルパー等が在宅療養者の食事・栄養に関する困りごとを把握した場合、相談する人はいますか。**



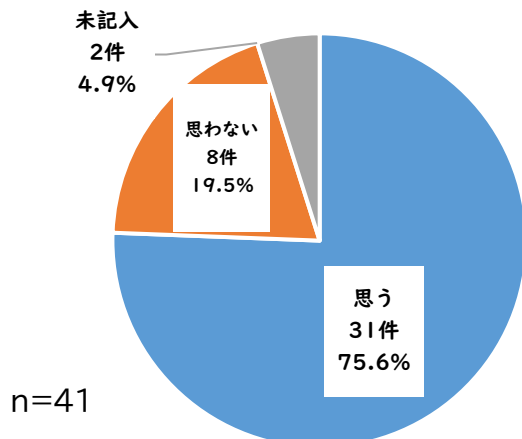
食事・栄養に関する困りごとを相談する人がいる施設は85.4%であった。  
相談できる職種は「看護師」「医師」「栄養士」の順に多い。

**4. 貴事業所は、在宅療養者を訪問栄養指導につなげたことはありますか。**



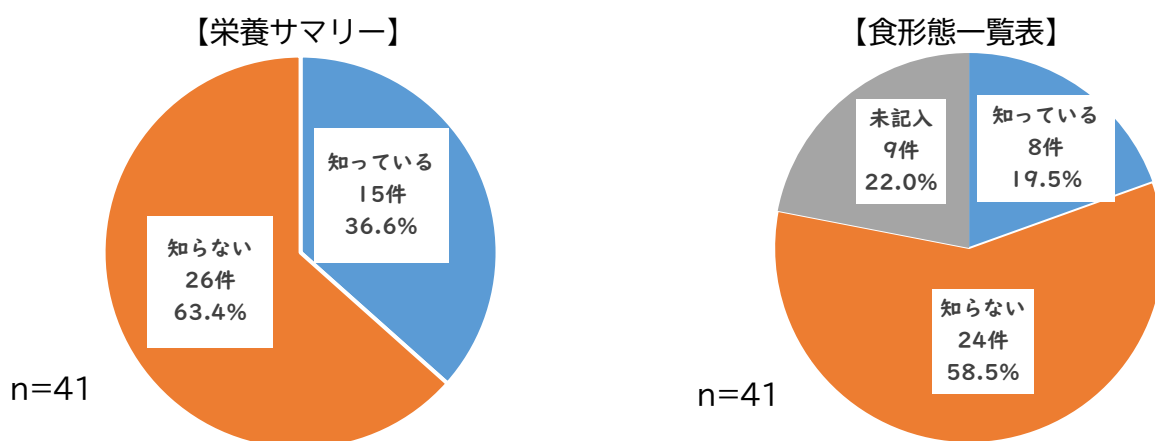
訪問栄養指導につなげたことがある施設は、31.7%であった。  
訪問栄養指導を実施した栄養士の所属は「病院」「診療所」が多い。

**5. 貴事業所から、かかりつけ医等に在宅療養者の栄養情報について情報提供するための連携ツールが必要だと思いませんか。**



かかりつけ医等に栄養情報を提供するための連携ツールを必要だと思う施設は75.6%であった。

## 6. 下記の栄養管理情報伝達書を知っていますか。



栄養サマリーの認知度は 36.6%、食形態一覧表の認知度は 19.5%であった。

## 7. 貴事業所で在宅療養者の食事・栄養管理の支援に関して困りごと・課題がありましたら記入してください。

- ・在宅での食事・栄養管理をアセスメント、モニタリングするツールや方法があれば知識を得たいと思っています。
- ・細かい内容のツールだと作成に時間を要してしまい日常業務に支障が出るので時間のかからないツールであれば必要と思う。
- ・独居で調理困難の方の支援の方法について
- ・栄養面のことを Dr に繋げたいが、Dr が男性の場合、食事に関しての困りごとは勘案されない。Dr が忙しいと細かすぎる情報は敬遠される傾向がある。
- ・これまでは看護サマリーやアセスメントを利用して食事の項目の情報提供をしていました。専用の書類があるとわかりやすく、認識のずれも減るかと思いますが、高齢者世帯や独居の方は特に、在宅の介護サービスで栄養や食事形態の改善にはとても難しいと感じています。
- ・マロリーワイス症候群の方に対する食事。体重減少が進んでいる。
- ・高齢者が生活を営むのに食べられないと成り立たないことの理解はある。高齢者は味の好みがあって妻のものを食べてきた人、自分で作ってきた人については人の作ったもの（弁当含む）を拒否する人が多い。食べない方がましの人が一番頑固。
- ・栄養指導するが、今までの食習慣や経済的問題でなかなか解決できない
- ・内容が的確でかつ支援者の事務量を不必要に増やさないツールでしたら必要だと思います。
- ・独居で調理困難の方の支援の方法について
- ・こだわり強くて食べない方、認知症で食欲が低下している人に食事を摂ってもらう方法
- ・認知症で独居、週5日デイサービスを利用されており、夕食は作っておかせてもらっているが、デイから帰宅後、ベッドで寝てしまわれ、目が覚めると朝だと勘違いされ夕食がおいてあっても朝食を食べられる。

## まとめ

- ・全ての施設で在宅療養者の食事・栄養状態に関して課題を感じることもある。課題の内容としては、「低栄養」「食事の偏り」「嚥下障害」など栄養士や多職種で支援をすることが必要となる課題が多い。食事・栄養状態に関する課題について相談できる人（多職種）がいる施設は 35 施設で 85.4%であった。しかし、そのうち栄養士に相談できると回答した施設は 12 施設で 1/3 であった。
- ・療養者を訪問栄養指導につなげたことがある施設は 31.7%であった。事業所に栄養士が在籍している施設は少ないため、医療機関や栄養ケア・ステーション等外部の栄養士による指導が必要となる。栄養ケア・ステーションの利用が少ないため、栄養ケア・ステーションの周知・人材育成が必要と考える。
- ・かかりつけ医等に栄養情報を提供するためのツールを必要だと思う施設は 75.6%。一方で栄養サマリーの認知度は 36.6%と低い。在宅療養者の支援者に対して栄養サマリー等の周知を行い、施設間だけでなく、在宅へ移動した際にも栄養管理が途切れないよう、活用を進める必要があると考える。